

骨壺の冷たさ

成長しつづける壁を見つめる

わたしはそれが何者なのか判断しかねている

触れても尋ねても壊そうとしても干渉できない

その中は満ちている

ペーパームーン

ペッパームーン

ハロウィーンも間近に迫ったあの日の夜はとても冷たい雨が降っていた。走る道すがら頭蓋の中まで雨が打ちつけ、あなたの肩の細さと握りしめた手の硬さばかりが強く印象に残った。けれどこうして風に吹かれて思い出されるのは、黒い煮豆の美味しかったこと。焼酎を呑む父と祖父を見る目つきの面白さ。わたしを呼ぶ声の優しい響き。

つないだ手のそのやわらかさ

胸にピンクのガーベラ

耳飾りに白のガーベラ

そして髪にはオレンジのガーベラ挿して

晴れ晴れと風に吹かれて揺れている

歌と踊りに満ちたあなただけの王国がこの冥い星のどこかで生きている